

## 災害時における避難訓練の実際と医療的 ケア児等コーディネーターの役割



福岡県医療的ケア児等コーディネーター（トータルアドバイザー）  
相談支援事業所バンビーノ 代表理事  
主任相談支援専門員 中原 京子

## 今日のお話の内容



- 1 避難訓練の目的
- 2 避難訓練の実践
  - 事例1 小森野発・住民みんなでつくる共生避難訓練  
～地域で支える共生のカタチ～
  - 事例2 “ここにおったとね”の声がつなぐ命  
～迷惑と遠慮を越えて～
  - 事例3 行政と現場が一体となった避難訓練の取組み  
～大木町からの発信～
- 3 災害時における医療的ケア児等コーディネーターの役割

### 1,避難訓練の目的

- 自助を強めるための実践型訓練



### 2, 訓練のステップ

- 日時と災害種別の設定（地震・水害）
- その場で持ち出せるものだけで避難
- 避難先で「必要なもの」と「忘れてはいけないもの」を確認
- 避難指示が出たら、空振りでも避難してみる」→  
「日頃から避難への意識づけができる」

### 3, 繰り返すことで得られる学び

- 実際に不便を体験し、リアルな対策を考える
- 支援を受ける側と支援する側、双方の視点から避難を見直す
- 地域の協力が負担にならない形で支援の質を向上させる

## 事例 1

### ミオパチーによる呼吸機能障害があるK君への避難訓練 R2023.6

#### 地域支援

人工呼吸器をはじめ、痰の吸引や経管栄養等の医療的ケアを日常的に必要とするお子さんとご家族の避難訓練を実施しました。（2023.6.11）



当日は、ご両親、コミセン局長、救命救急士、民生委員、主任児童委員、障害福祉課、地域福祉課、久留米市自立支援協議会（審心分科会）久留米市障がい者基幹相談支援センター、久留米市医療的ケア児等コーディネーター、江藤酸素、相談支援事業所ハンビーン 上記約30名の方々が訓練に参加しました。



花火大会にも  
いったよ～

今回の避難訓練を機に、ご家族は外出の機会を増やされ、地域の運動会、夏祭り、子育てサロン等に積極的に参加され、地域での子育てを楽しんでおられます



地域の運動会も  
参加しました



## 事例2 2024年度 要配慮者の避難訓練

### 1. 内容 休眠預金を活用した地域防災プロジェクト

- 受託者:社会福祉法人拓く(福岡県久留米市)
- 期間:2024年5月1日~2027年2月28日 3年)

### 2. 目的

障がい者や高齢者が地域の人たちと支え合いながら特性に配慮して避難をすることができるようにする。

### 3. 避難訓練

日付	障害種別	校区	避難場所
24年9月7日(土)	聴覚障害	南校区	南小学校体育館
24年10月10日(木)	医療的ケア児	西牟田校区	西牟田校区コミュニティセンター
24年11月29日(金)	視覚障害	東国分校区	久留米サイクルファミリーパーク (ベッド同伴)
24年12月13日(金)	知的障害	金丸校区	西町教育集会所
25年1月18日(土)	重複障害 (視覚・聴覚)	三潁校区	久留米市西部地区体育館 (ベッド同伴)

### 4. 参加者

地域住民(自治会長・校区社協会長、民生委員など)、福祉サービス事業所、医療機器メーカー、訪問看護、障害者福祉課、地域福祉課、防災対策課、社会福祉協議会、障害者基幹相談支援センター、プロジェクト地域コーディネーター  
その他、ご本人に関係するみなさまなど、毎回総勢20名以上が参加

### 5. 実践内容

自宅から指定避難所へ行き、実際にどのように過ごせるのか?何が準備されているのか?自分で準備するべきものは何なのか? など、実際にやってみることでイメージを共有し、課題を見出すことができています。



いつもは、車移動があたり前。  
⇒緊急時にガタガタ道を医療機器や避難グッズと共に車椅子を押して移動するのは、一人では難しいことを実感。

医療機器使用のため、電源必須。  
⇒避難先では、どのように電源確保ができるのだろうか?

医療チューブを自宅に忘れてしまった。  
⇒取りに戻るができないけど...どうしよう??

地域の方を知って  
いただくことも大事

### 6. 2025年度の取り組み

- ・自閉症・精神障害・認知症の方を対象として避難訓練を実施。
- ・避難所以外の場所(高齢者施設等)で医療的ケア児の受入れ。

**事例3**

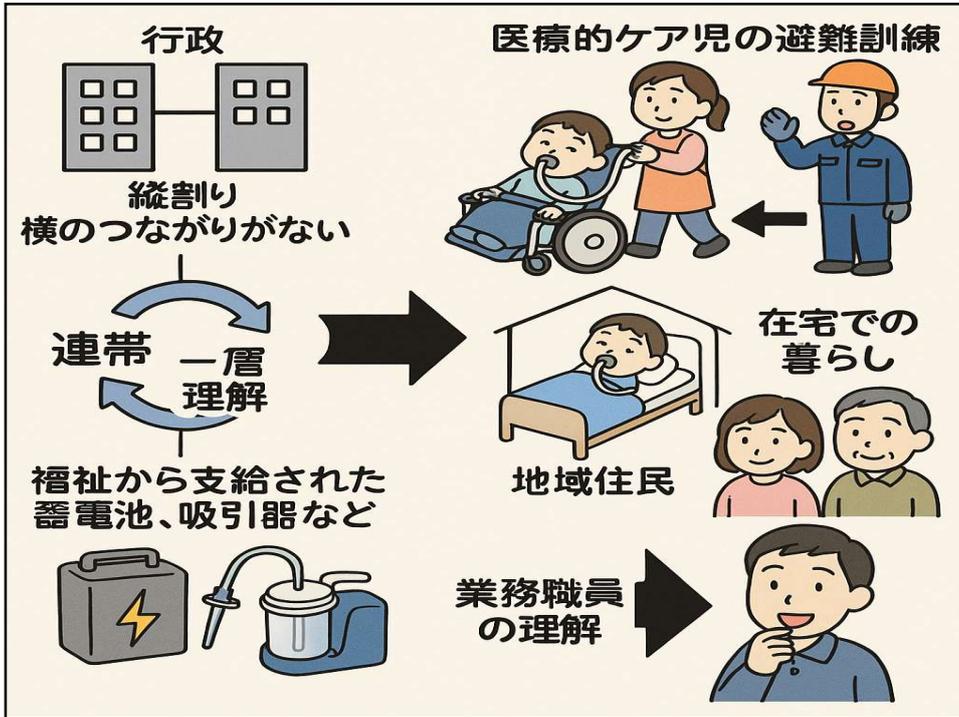
移動～到着

母からAちゃんの状態について説明

蓄電方法の実際

母からAちゃんの状態について説明

- ・大木町の電気自動車は5台。うち1台は一般家庭で10日分の電気を確保できる。
- ・町は近日中に日産と協定締結を予定しており、災害支援に向けた取り組みを強化
- ・車からの電気がうまくつながるか確認した。



「避難する」ことを積み重ねるメリット：

- 行動のハードルを下げる（いざという時にためらわずに動ける）
- 避難ルートや避難先の環境を確認できる（実際に行ってみないとわからない課題が見えてくる）
- 自助を強める訓練になる（自分に必要なもの、サポートのポイントが分かる）
- 地域の支援者との連携が深まる（繰り返すことで、協力体制が整う）



## 災害時の避難と復旧の流れ



## 災害時における 医療的ケア児等コーディネーターの役割

### ① 個別避難計画の策定・連携推進

自治体や支援者と協働して個別避難計画を作成  
避難所の受け入れ体制の確認と適切な環境整備

### ② 医療・福祉機関との平時からの連携強化

医療機器・医療備品・生活備品の備蓄と管理  
訪問看護・ヘルパー派遣調整による継続的なケア確保  
地域との支援ネットワークの構築

### ③ 家族支援・情報提供体制の整備

避難先での生活環境や支援制度の説明  
精神的負担の軽減につながる相談窓口の設置

### ④ 電源・物資の確保と調整

医療機器の電源（予備電源・充電）の確保  
衛生用品・医療物資の供給支援体制の整備

### ⑤ 災害後の復興支援と生活再建

支援制度の案内と申請サポート  
医療的ケア児が安心して日常生活に戻れる環境づくり

みんなで医療的ケアを受けいれ隊！



## 最後に

### この笑顔を守るために

私たちは、これからも共に備え、行動していきます。



“備え”は、特別なことではなく、“暮らし”の一部！だからこそ、  
家族・地域・支援者・行政が日常の延長線上で手を取り合っていく！